

<要約版>

滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和8年度第1回会議

日 時 令和8年(2026年)7月24日(金)

13時30分～15時30分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

(1) 第三次中長期基本計画 令和7年度評価について

(2) その他

3 閉 会

1 開会

○司会（廣部副館長）から定足数と会議成立の報告の後、会長が議事を進める。

2 議題

（１）第三次中長期基本計画令和７年度評価について

○会長：令和７年度の内部評価について、事業目標の項目が６つあるので、説明および質疑を２項目ずつ区切って行う旨説明。

【事業目標１・２についての説明】

○事務局（研究部長）：事業目標１「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」についての説明および進捗状況の説明。

重点事業１－１「世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値高める研究の推進」

・原著論文40件、専門家向けの記述50件など研究成果は例年並みに公表された。

重点事業１－２「研究成果を国内外に発信し、ビワコの魅力を人々に伝える」

・ウェブでの論文紹介は４件増えた。J-STAGEで研究報告書を公開しているが、ダウンロード数が14,000件と順調に推移している。一方でWEB等を通じた成果の発信について体制は整ったものの発信実績はまだ低調であり活用しきれていない。

重点事業１－３「研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」

・令和７年度に大型備品である水質分析装置を調達し、令和８年度にもガスクロマトグラフィーの調達予算を確保する一方で、中規模機器の調達は見通しがたっていない。

○事務局（資料活用係長）：事業目標２「資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備」についての説明および進捗の説明。

重点事業２－１「標本・資料の管理体制の強化」

・収蔵空間の設備更新とIPM管理体制の強化が大幅に進んだ。

重点事業２－２「標本・資料の整理の推進と公開による利用促進」

・びわはくGISに新たに昆虫観察データを追加し背景地図と検索方法を大幅に更新した

結

果、昨年度に比べ訪問するユーザーが10倍に増えた。

重点事業２－３「ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」

- ・3Dや電子図鑑等デジタル博物館というコンテンツを追加し、公開した。

【事業目標１・２の質疑応答】

- 委員：事業目標１について「進んだ」と報告されているが、評価される根拠を説明いただきたい。
- 事務局（研究部長）：発信内容としては進んでるが、わかりやすく伝えるための噛み砕きが弱かったのがこのような評価としている。
- 委員：しっかりした学術雑誌にたくさん発表されているので、もっと評価してもいいのではないか。
- 委員：研究機関である一方で、展示を通じて県民に分かりやすく伝えることも重要。
- 事務局（館長）：分野外の人にわかりやすく伝えるというのは自分たちの研究の意義を見つめなおす機会になる。今後も積極的にやっていきたい。

【事業目標３・４の説明】

- 事務局（環境学習・交流係長）：事業目標３「みんなで学びあう博物館へ」について説

重点事業３－１「幅幅広いニーズに応える交流事業の充実」

- ・学校連携、地域連携、交流イベント等の事業について、参加者層を広げるだけでなく互いに関わりあうような仕組み、地域でも活動できる担い手の育成を重視し実施した。環境学習センターが相談窓口としての認知度が低い課題もある。

重点事業３－２「出会いの場の創出」

- ・2024年度に開始した「フェスとも」の取組を発展させ、「フェスとも出展部」、「フェスとも運営部」を創出した。

重点事業３－３「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

- ・教員研修は受講者が実際に体験できる形式で行い、好評であった。研修によって教師自身の「体験」への支援につながった。

○事務局（芦谷学芸員）：事業目標４「もっと使いやすい博物館へ」について説明。

重点事業４－１「誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長」

・ポケット学芸員に中国語の追加の準備を進めていたが、令和７年度中には実現しなかった。早期の追加を目指すとともに、既にテキストデータのあるスペイン語とポルトガル語についても導入を目指す。

重点事業４－２「「観る」展示から「観る＋使う」展示への成長

・電子図鑑や「おうちミュージアム」のコンテンツに加えて、YouTube「びわこのちからチャンネル」の動画へのアクセス用 QR コードを展示室内に設置した。

重点事業４－３「社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長」

・すべての常設展示で小規模な展示更新を複数回実施できた。

【事業目標３・４についての質疑応答】

○委員：中国では AI を搭載した人型ロボットが博物館のガイドなどで実用化が進んでいる。検討されているか。

○事務局（芦谷学芸員）：当館では展示交流員がいて館内で来館者と話して展示体験を深めることを目指している。AI の導入も使いどころを見極めながら検討していく。

○委員：手話言語による解説の導入について、展示解説についてどういうニーズがあるか当事者なり関係団体に話を聞いてほしい。

○事務局（芦谷学芸員）：手話言語による解説については、「ポケット学芸員」に動画を流す機能もあるので追加できないか検討している。

○委員：環境学習を支えるネットワークづくりについて、旅行会社や広告代理店が集まるマッチング会みたいなものに行かれているのか。

○事務局（企画・広報営業課長）：県の観光連盟であるびわこビジターズビューローに教育旅行部会と国内旅行部会、インバウンド部会があり、そちらに加盟しており、商談会にも参加している。

【事業目標 5・6 についての説明】

○事務局（企画・広報営業課長）：事業目標 5 「より多くの人が利用する博物館へ」について説明。

重点事業 5－1 「ICT を利用した琵琶湖博物館の魅力とその入口としての博物館の紹介」

- ・当館の YouTube チャンネルの登録者数が約9千人から約3.4万人に大幅に増加した。

重点事業 5－2 「双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映」

- ・びわ博フェスの際に、来館者にこれまでの30年、またこれからの当館とのかかわりについて考えていただく機会を設け、多様な意見を収集することができた。

重点事業 5－3 「来館しやすい環境の整備」

- ・新たな湖上交通として、烏丸半島港とおごと温泉港、におの浜観光桟橋等つなぐ航路を定期航路したこと、当館としても団体割引の適用や来館者への周知を行った。また、ナイトミュージアムのプレミアムツアーにおいてナイトクルーズについても試験的に行った。

事務局（総務課長）：事業目標 6 「博物館の活動を安定して継続する」について説明。

重点事業 6－1 「老朽化した施設の改修と災害への備え」

- ・大規模施設改修として、防火設備や防犯カメラの更新、高圧電力受変電設備等の改修を行った。

重点事業 6－2 「安定した活動基盤を確保する仕組みづくり」

- ・企業等から展示事業に限定した寄附を受けることで、水族企画展示や、子ども・若者向けの新規事業である「生き物ふれあい体験・ワークショップ事業」や「絵本製作プロジェクト事業」などの新たな取組を実施した。

【事業目標 5・6 についての質疑応答】

○委員：YouTube 登録者数が増えた要因は。

○事務局（企画・広報営業課長）：Google で「博物館」や「水族館」と検索されたことがある方等に絞って広告配信を行い、登録いただけた。

○委員：数だけを追わずに、どんな方が見て、そこからどうアクションしてくれるかというところをしっかりと仕掛けていかななくてはいけない。琵琶湖博物館ならではのワー

クショップに可能性を感じており、登録者に配信することで安定した基盤の支えの1つにもつながると思う。

○事務局（企画・広報営業課長）：琵琶博物館を知ることフィールドへ行っていただきたい、実際に県内各地に行っていただきたい、関心を持っていただきたいということが目的にあり、その対応はしっかりと行っていきたい。安定した基盤については条例等様々な縛りがある中、持続可能な博物館とか新しい収入源のところを確保しながら、より博物館に回せるような、そういう取組については、一生懸命考えていきたい。

○委員：歴史とのコラボレーションによる見せ方であったり、カーボンニュートラルのあたりはどうか。

○事務局（企画・広報営業課長）：歴史の担当学芸員がおり、展示に活かしている。カーボンニュートラルについては、うみっこ広場にペロブスカイトの太陽光パネルを設置したり、専門会社の協力を得て、ペットボトルキャップからリサイクルベンチを作り設置する予定である。

【外部評価の記入等について】

○会長：外部評価の記入票について、今説明を受けました内部評価のご項目をもう一度見直し、今日の意見交換の内容も踏まえて、ご記入いただきたい。委員の皆様の外部評価提出後、会長、副会長で外部評価の総評をとりまとめる。

○事務局（企画・広報営業課長）：8月7日までに事務局あて外部評価を送付いただきたい。

（２）その他

○事務局（企画・広報営業課長）：琵琶湖博物館の30周年記念事業について資料に基づき説明。

3 閉会

以上